

学会彙報

○真宗学会例会 三一〇二教室

十二月十日(火)午後四時十分より

——卒論梗概発表——

「念仏の僧伽——唯信鈔文意に聞く」

修士一回生 吉田敦史

「諸仏の家」 修士一回生 星名万美

○十一月六日(水)午後二時三十分より、
尋源講堂において、鸞音忌法要が勤修された。曾我信雄先生より「父の追憶」と題する講演をいただいた。

○十一月六日(水)午後四時三十分より、
一一一〇教室において修士論文中間発表会が行われた。各ゼミからの発表者と題目は、左記の通りである。

「大行論」 幡谷ゼミ 林 顕真

「欲生心開顯」 小野ゼミ 顔良信正

「独立者——無碍の一道を生きる者——」

寺川ゼミ 谷野 了

○十二月三日(火)午後四時十分より、
尋源講堂において卒業論文中間発表会が行われた。各ゼミからの発表者と題目は、左記の通りである。

「王舎城の悲劇——善人と悪人」

神戸ゼミ 仁礼法潤

「歎異抄の親鸞」 幡谷ゼミ 菊嶋 悟

「無碍の一道」 臼井ゼミ 武市式由

「一人の成就——現生不退道の獲得——」

小野ゼミ 速水 馨

「親鸞における行信の課題」

江上ゼミ 伊沢道宣

「念仏者の無碍道について——清沢満之に聞く——」

安富ゼミ 大溪昌寛

「願生浄土——法蔵菩薩——」

延塚ゼミ 池本雅美

○十二月十二日(木)午後二時三十分より、尋源講堂において真宗学会大会が開催された。学外から同朋大学学長の池田勇諦先生をお迎えして、「蓮如上人の女人成仏説の課題」と題して講演をいただいた。また学内からは江上助教教授より、「善知識の意義」と題する講演をいただいた。

編集後記

この二年あまりの間の世界の動きの慌ただしさを思うと、そのことが何であるかを考える前に、情況が先行してゆき、物事が過去の出来事として風化し忘れ去られていくかのである。一つの出来事が現実として定着していくのではなく、見せ物として商品化されるか、記録としてファイルされていくかのである。

バブル経済に象徴的に見られるように、現代は欲望を基盤として虚構と現実が錯綜している時代である。確かに未来を見通しての計画に基づかなければ現代の社会は立ち行かなくなっていることは明らかである。しかし未来を先取りしながら生き急ぐことの危うさを感じるにつけ、生きる現実を欲望の対象として私有化し操作するという人間の在り方の問題性を根本から問い直し、転換していくことが、私たちの急務の課題であることが思われる。

(文責・安藤)